

短歌 (投稿順)

俺は雲放浪癖のこの俺を家で案じるやきもきの妻
 早まりし前山からの朝日浴び濯ぎ物干すわれへ雉子鳴く
 孫息子国家試験合格と亡夫の墓へ告げたる彼岸
 陸橋を渡るSL煙吐く春のおとづれ知らせる汽笛
 NHK東南海の大地震被害ドラマを見た後不安
 モミジガサワラビタラの芽花いかだ花粉過ぎれば山菜の旬
 テレビで見て映る景色はその昔し旅した所ろ思いおこさす
 お彼岸に亡きはらから等来て嬉し夢より覚めて逢いたさ募る
 立ち座り「よいしょ」と言うも聞き慣れて二人交互に言い合っており
 桜の季来るたび思う満開の笑みを咲かせたけんさんの芸
 無沙汰にて会へないままに逝きし兄九十九歳のお骨を拾ふ
 ふた組の雛壇飾る道の駅屏風の和歌をなつかしく読む
 麗らかや友とゴンドラ運河行く櫂の音まで弾むがごとく
 三月に急逝の義姉長兄に嫁ぎてきしも三月なりき
 春色の沢辺ながめてひと休み去年は咲きてシカタクリまだか
 新人類言われた頃が懐かしい波瀾万丈還暦間近

皆野 戸塚喜久雄
 三沢 眞下 杏子
 皆野 根岸 詩子
 皆野 大澤 貴夫
 上日野沢 四方田利男
 皆野 萩原 初恵
 皆野 村田ハツ代
 下日野沢 浅見 豊子
 下日野沢 新井 節子
 皆野 打木 昭廣
 三沢 新井 叶子
 三沢 新井 民子
 皆野 太幡琉美花
 皆野 引間 万亀
 国神 藤原マキ子
 皆野 石原 達也

俳句 榎本順江 選 投稿数 18 句

うとうとす雲雀の声の降る窓辺
 (評)雲雀は空高く舞い上がり(揚雲雀)暫く囀った後真つ直ぐに落下する(落雲雀)。空から降る如く窓辺に届く雲雀の声が、うとうとを一層心地よくしてくれればし至福の窓辺です。二句目、WBC侍ジャパンの活躍は日本中を熱狂させてくれました。野球に関心の無かった人もすっかり引き込まれ、アメリカ迄観戦に行った人も大勢居たようです。そしてついに大一番、歓喜の渦にまばゆい風が吹き渡りました。三句目、かつて、何十年後の活用を思い植えられた杉、今や手入れをする人も居なくなつた杉山は荒れてしまった。杉は花粉を飛ばし存在を伝えている。山や作者の愁いが伝わる句です。

風光る侍ジャパンの大一番
 皆野 小菅恭青史
 捨てられし杉山の嘆き花粉飛ぶ
 皆野 宮崎 肇
 夫の幕密かに灯すやぶ椿
 下日野沢 小原 和夫
 左難聴右はまあま初音聞く
 皆野 根岸 詩子
 読経の意味聞いて忘れて春彼岸
 皆野 戸塚喜久雄
 上日野沢 四方田利男
 空と陽と風に遊びし柿若葉
 皆野 萩原 初恵
 三年振りマスク外して卒業す
 三沢 新井 叶子
 皆野 石原 達也
 卒寿なる姉の手づくり蓬餅
 三沢 新井 民子
 しみわたる鶯の声夢の中
 皆野 宮崎 肇
 ようこそと秩父いちごや道の駅
 三沢 眞下 杏子

「広報みなの」有料広告募集

